NEW SOLAR ENERGY ISSUE

X PRESS

特集

見逃せない! 注目の アンダー50kWソーラー市場

12
2013 Dec.

[当社導入事例]
有限会社ミツハシ・プランニング様
千葉県富里市

www.xsol.co.jp

PRODUCED BY XSOL

見逃せない!
注目のアンダー50kWソーラー市場

FITが施行され、およそ1年半。盛況が続く太陽光発電市場ですが、このところ、市場に変化が表れてきているのをご存知でしょうか。出力が10kW以上かつ50kW未満の小規模産業用発電システム（アンダー50kWソーラー）の設置が増えてきているのです。家庭用太陽光発電システムは、例年、夏頃から年末にかけて駆け込み需要の波が起きるのですが、今年は50kW未満の小規模産業用発電システムが建設ラッシュを迎えており、産業用市場がこれまで以上に活況を呈しています。
そこで今号は、「アンダー50kWソーラー市場」にスポットを当て、その人気の理由や、市場が盛況な背景についてご紹介します。

アンダー50kWソーラー

	家庭用		メガソーラーなど	
設備容量	10kW未満	10kW以上 50kW未満	50kW以上 2MW未満	2MW以上
買取方式	余剰電力買取	全量買取	全量買取	
買取単価	38円（税込）	37.8円（税込）	37.8円（税込）	
買取年数	10年	20年	20年	
主任技術者の選任	不要	不要	必要（保安業務あり）	
連系方式	低圧連系	低圧連系	高圧連系	特別高圧連系
設備認定	必要	必要	必要	
事前協議費用	不要	不要	必要	

※買取単価・買取年数は毎年見直し、変更の可能性あり
※記載は2013年9月1日時点

アンダー50kWソーラー設備導入の流れ

STEP 1 用地調査 → STEP 2 接続協議 → STEP 3 設備認定 → STEP 4 電力会社との特定契約および接続契約の締結 → STEP 5 資金調達・土地購入/賃貸借 → STEP 6 太陽光発電所の建設 → STEP 7 売電開始

1.用地調査
農地法や森林法などに抵触せずに太陽光発電所を建設できる土地かどうかを調査。積雪や凍結、塩害、雷害のほか、受光障害や周辺民家の有無などの周辺環境の調査。さらに、土地の起伏・形状、地盤・排水状況、緯度・方位、造成の必要度や搬入経路も確認。
用地が発電事業を20年間継続でき、また収益を確保できるかを調査（日照時間、地代など）。

2.接続協議
売電のための系統連系について、電力会社と協議（約1ヶ月）。

3.設備認定
経済産業省へ供給条件の届け出（申請から認定まではおよそ1ヶ月間）。

4.電力会社との特定契約および接続契約の締結
電力会社から系統連系本契約の承諾通知が届いた時点で連系が可能。

5.資金調達・土地購入／賃貸借
確定したコストをもとに、必要な資金を調達。

6.太陽光発電所の建設
建設が完了次第、系統連系の契約を申し込む。

7.売電開始

UNDER 50kW SOLAR

アンダー50kWソーラー導入のメリット

コストの軽減
MERIT 1

家庭用設備と同じ「低圧連系」の範囲で設置できるため、メガソーラーなどの「特別高圧」に比べて高額な機器を揃えなくてもよいのが魅力です。また、ソーラーパネルやパワーコンディショナなど周辺機器の数も少なくてすみ、機器コスト全体が抑えられます。さらに、保安業務に特別な資格・免許が要らないため、有資格者（電気主任技術者）の確保が不要となり、ランニングコストの低減に繋がります。

早期の事業開始を実現
MERIT 2

低圧連系であるため、メガソーラーなどの特別高圧に比べ、各種手続きが簡易です。そのため、事業検討から受給契約までの期間が圧倒的に短くなります。早期に事業を開始し、売電で利益を得たい人にとって有利です。特に、駆け込み需要が増えるこの時期にはアンダー50kWソーラーが最適なのです。
ただし、システムの出力規模や電圧の種別により、必要となる手続きが異なる場合があるため、詳細は管轄の電力会社へ問い合わせる必要があります。

土地・屋根の有効活用
MERIT 3

アンダー50kWソーラーは出力が10kW以上かつ50kW未満ですが、50kWに近い比較的大型の設備でも、500～600㎡（151～181坪）程の広さがあれば、十分に設置可能です。このため、工場や倉庫の屋根、広大ではない遊休地、公共施設なども設置対象となり、メガソーラーの設置は不可能でも、余剰スペースを収益源に変換が可能です。

アンダー50kWソーラー市場にまつわるキーワード

KEYWORD 1

「農地転用」

農地を農地以外の目的に転用すること。農地転用をする場合は、都道府県知事の許可（4ha以下の場合）または農林水産大臣の許可（4haを超える場合）が必要です。農地は営農条件および市街地化の状況からみて5種類（農用地区域内農地、甲種農地、第1種農地、第2種農地、第3種農地）に区分されますが、このうち甲種農地と第1種農地は原則的に転用が認められません。

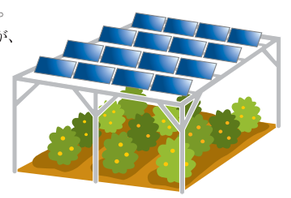
農地の所在地	面積区分	許可等の処分権者	許可・届出の区分
市街化区域	なし	農業委員会	届　出
市街化調整区域	4ヘクタール以下	都道府県知事	許　可
	4ヘクタール超	農林水産大臣（地方農政局長専決）	

KEYWORD 2

「ソーラーシェアリング（農地併業）」

農地に支柱を立てて上部空間に太陽光発電設備を設置し、農業と発電事業を同時に行うこと。
農林水産省はこれまで農地転用にあたるとして農地での太陽光発電を認めていませんでしたが、2013年4月1日に認可しました。
農林水産省が示した指針概要は以下の通り。

1. 支柱の基礎部分について、一時転用許可の対象とする。
   転用許可期間が3年以内であること（問題がない場合には再許可可能）。
2. 支柱は簡易な構造で容易に撤去できるものであること。
3. 下部の農地における適切な農業の継続が確実であること。
4. 下部の農地における単収が同じ年の地域の平均的な単収と比較しておおむね2割以上減少しないこと。
5. 許可の条件として、年に1回の報告を義務付け、農産物生産等に支障が生じていないかを確認すること。



X PRESS

CONTENTS

02 見逃せない! 注目のアンダー50kWソーラー市場
04 今が最大のチャンス! アンダー50kWソーラーを奨める理由
INTERVIEW 立命館大学大学院 客員教授 村沢 義久 氏
06 アンダー50kWソーラーに最適! 限られた土地でも最大限に威力を発揮する「SunPower社製ソーラーパネル」
08 データで知る 太陽光発電システム導入量予測
09 今号の気になるPVワード 「新電力（PPS）」
10 CASE INTRODUCTION 導入事例 有限会社ミツハシ・プランニング様 千葉県富里市
11 INFORMATION XSOL最新情報のお知らせ

今が最大のチャンス! >>>>

アンダー50kWソーラーを奨める理由

空前のメガソーラーブームに追随するようにやってきたアンダー50kWソーラー市場。なぜアンダー50kWソーラーが注目されているのでしょうか。太陽光発電とFITの仕組みを知れば、誰もが納得するはずです。今回は、太陽光発電推進の立場をとられ、精力的に活動されている立命館大学大学院客員教授の村沢義久氏にお話をお伺いしました。

立命館大学大学院 客員教授
村沢 義久 氏

むらさわ よしひさ／東京大学大学院工学修士、スタンフォード大学MBA。ゴールドマンサックス証券のバイスプレジデント（M&A担当）などを歴任の後、05～10年まで東京大学特任教授。10年～13年3月まで同大学総務室アドバイザー。現在の活動の中心は太陽光発電と改造電気自動車の推進。環境ビジネスおよび日経ビジネスオンラインなどでコラムを連載中。

WHY UNDER 50kW?

市場の動向から見るアンダー50kWソーラー

2012年7月にFITがスタートして、はや1年半が過ぎようとしていますが、ご存知のように、空前の太陽光発電所設置ブームが続いています。これまでの主役は、全量買取でコストパフォーマンスが高いメガソーラーでした。しかし、ここにきて、10kW以上かつ50kW未満のアンダー50kWソーラーが注目されていることをご存知でしょうか。

太陽光発電全体の新規導入量でいえば、FITスタートの前年である2011年では100万kW程度でした。これが、FIT元年である2012年には200万kW前後に。さらに、2013年の新規導入量は約500万kWに拡大するだろうといわれているのです。

この中でアンダー50kWソーラーは、件数は多いのですが発電量としては少ないので、産業用全体における発電量比率は多くないでしょう。しかし、今後、人気が急上昇することにより、発電量比率も変わってくるかもしれません。

では、なぜこのように市場が賑わっているのか。理由は、アンダー50kWソーラーが持つ5つの大きな特長によります。1つ目は「安価」であること。2つ目は「接続が簡易」であること。3つ目に「全量買取」であること。4つ目は「買取期間」のこと。そして、5つ目に「減税措置」が挙げられます。順を追ってご説明します。

実際に手が届くコスト

アンダー50kWソーラーが非常に魅力的なところは、メガソーラーの設置に比べ、設備投資額が安価であることです。ここで勘違いしてはいけませんが、アンダー50kWソーラーは、産業用の発電所としては、必ずしもコストパフォーマンスが高いとはいえません。やはり、メガソーラーに比べると見劣りします。しかし、多少でもお金を用意して手を伸ばせば、メガソーラーは無理でも、個人が「産業用のマイソーラー」を手に入れることはできるのです。このお手軽感が、ブームを下支えしているわけです。実際に、退職金を充てたり、親などからお金を融通してもらって始める方もいます。

ところで、「太陽光発電は日が出ている時間しか発電しないため、売電額が不安定で、良い投資対象とは思えない」という人がいます。しかし、これは誤りです。確かに、今日が晴れていても、明日は雨が降るかもしれません。一年後の今日の天気は誰にも分かりません。ですが、1年間の平均日照時間は過去のデータから割り出せます。しかも、これは20年間も発電する太陽光発電所の話です。株のように大当たり、ということはありませんが、長期間で見たときに、年間に一定時間は確実に計算できる日照を投資対象とすることほど、安定的で、利回りの良い投資対象を私は知りません。

実際に、太陽光発電所を設置した事業者の多くは、「必ず儲かる」という現在の太陽光発電に魅せられて導入しており、確実に利益を得ています。

さらに、投資対象として、自宅や自分の土地以外の太陽光発電所に投資をする事業者も増えてきています。

投資としてマンションを所有した場合、入居者が出ていってしまえば、収入はゼロになるという不安定さがあります。しかし、マンションに設置している太陽光発電所は、毎日昇る太陽を相手にしているわけですから、収入がゼロにはなりません。

このような理由で、メガソーラーはもちろん、アンダー50kWソーラーであってもほぼ間違いなく利益が出る仕組みになっているのです。

ただ、「導入はしたいが、まとまったお金がない」という人がいるのも事実です。

> 太陽光発電より安定的で、利回りの良い投資対象を私は知りません

アンダー50kWソーラーはメガソーラーに比べると初期投資を抑えられるとはいえ、車を購入する程度の金額では手が届きません。そういった人は、ローンを活用して事業を始めています。初期投資を借金でまかなっても、それを上回る利益を手にできるということです。このことを知らずに、太陽光発電に参入していないことは、実にもったいないと私は感じます。

低圧接続の簡易さ

アンダー50kWソーラーは、メガソーラーのような大容量発電とは違い、近くに大きな送電線が必要、または引き込まなければならない、などという制限がありません。産業用であっても50kW未満の低圧接続になるため、家庭用で使用する電線を引くことで十分です。このため、基本的には審査が不要となり、例えばインターネットで届け出をするだけで送電線と繋げてもらえるといった簡易さがあります。うまく送電線と繋がらない、接続拒否がある、などメガソーラーでは危惧される事態の心配もありません。複雑な工事が必要でないため、主任技術者の設置に掛かる人件費も発生しません。

さらに、電力会社への申請が不要なので、メガソーラーの設置で避けられない21万円の申請料も要りません。

全量買取と買取期間20年

アンダー50kWソーラーは、発電量が10kW未満の家庭用に比べると、高いコストパフォーマンスを発揮します。余剰電力の買取りである家庭用に比べて大きな魅力は、10kW以上だと全量が買取りの対象となることです。家庭用の場合は、発電した電気を、まずは自宅で消費し、使いきれずに余った電気を売電します。そのため、売電できる量が大幅に減ります。アンダー50kWソーラーは産業用なので、「大きな家庭用発電所」ではなく、「小さなメガソーラー」と捉えるべきなのです。

また、10kW未満の家庭用発電は買取期間が10年ですが、10kW以上の産業用発電は買取期間が20年。この2つの理由だけでも、家庭用に比べると売電収入は圧倒的に勝る仕組みになっているといえるのです。

一括で償却できるグリーン投資減税

2011年の6月から施行されている「グリーン投資減税」をご存知でしょうか。「売電で損さえしなければ」と考え、グリーン投資減税の魅力だけで導入をした事業者も少なくありません。

これは税務の話ですが、工場や生産設備などを購入すると、買ったときの金額を減価償却して損金として毎年計上できます。例えば、太陽光発電所を2,500万円で導入し、その内の課税対象となる太陽光発電設備が1,700万円だったとします。太陽光発電設備の通常の償却期間は17年間です。つまり、定額法だと年間100万円の減価償却費となります。

ところが、グリーン投資減税が適用されると、特例で1,700万円を一括で償却しても良いことになっているのです。つまり、所得がある人ほど税金還付額が大きくなり、実質的な初期投資額が小さくなるというわけです。

アンダー50kWソーラー導入に関する今後の見通しと注意すべきポイント

さて、この太陽光発電所設置ブームはいつまで続くのでしょうか。私は、長期的に見ると2030年頃まで続くと思っています。しかし、短期的に見ればあと2、3年でブームがいったん落ち着くかもしれません。買取価格は毎年見直されることとなっており、実際に2年目には10%下がりました。それであっても、現在は「プレミア価格」です。「プレミア価格」とは、「施行後3年間は再生可能エネルギー電気供給者の利潤に特に配慮する」との方針に基づき、集中的な再生可能エネルギーの利用拡大を図るために設定された高価な買取価格のことです。これが、1年半後の2015年3月で終了することとなっています。また、グリーン投資減税の一括償却制度も同じ時期に終わります。

導入を検討している人にとっての目玉的措置が同時期に終わることが、どの程度、市場に影響を与えるのか、私にも正確には予測できません。メーカーをはじめ、市場関係者は、太陽光発電の普及が継続するように、更なるコスト削減などの企業努力を進めていくことが必要でしょう。

「グリーン投資減税」が施行中かつ「プレミア期間」であることから、急いで導入を実現させたいとは誰もが思うことですが、太陽光発電所を設置したら、その先は設備と長い付き合いになります。まずは、設備の保証や保険の状況についてしっかりと確認して、適切な対応をすることが重要です。また、保証そのものが信頼できるか、さらには外国製品の場合はその会社自身が信頼できるのかも調べておくことが必要でしょう。

私が今まで生きていて、これほどまでに急拡大し、今後も栄えていくであろう巨大産業は知りません。ぜひ、たくさんの人に参入していただき、市場全体が盛り上がっていくとともに、日本のエネルギー事情が改善されていくことを願ってやみません。

アンダー50kWソーラーに最適! >>>>

限られた土地でも最大限に威力を発揮する「SunPower社製ソーラーパネル」

日本の限られた国土の中でアンダー50kWソーラーの導入を成功に導く一つのカギは、変換効率が高いソーラーパネルです。変換効率の高いソーラーパネルなら、限られた面積でも高い発電量を実現できます。ここでは、業界最高レベルの変換効率を誇る、「SunPower社製ソーラーパネル」をご紹介します。

発電効率 業界最高レベルのソーラーパネル

ソーラーパネルにまず求められるのは、高い変換効率です。たとえ条件のよい場所に太陽光発電システムを設置しても、ソーラーパネルの変換効率が低ければ、たくさんの電気を生み出すことはできません。私たちエクソルは、お客様にとって最適な太陽光発電システムをご提供するため、2013年2月より、業界最高レベルの変換効率を誇る「SunPower社製ソーラーパネル」を取り扱っています。

高変換効率を達成させたバックコンタクト方式

パネル変換効率が実に20.1%にのぼるこの製品は、定格1kW当たりの実発電量を定格出力240Wの従来型パネルと比べると、1年目で平均8%も上回ることが実証されています。従来型との差は年々拡大し、SunPower社の出力保証期間満了の25年後には、35%もの出力差が生じます(右ページ『25年間の発電量』参照)。なぜ、ここまでの高い変換効率を実現することができたのか。それは「バックコンタクト」と呼ばれる独特な設計によるものです。通常、電極は太陽光を受光できないので光を反射してしまいますが、バックコンタクト方式により、すべての電極をパネルの裏面で接続させると、表面は黒色のシリコン面だけで構成することができるので、ロスなく太陽光を取り入れることができます。

また、同面積あたりの出力値が高いので、通常のパネルでは合計で8kWほどのシステムにしかならない場所でも、変換効率が高い「SunPower社製ソーラーパネル」を導入すると10kW以上のシステムとなり、全量買取制度の対象となる事例も少なくありません。

SunPower社

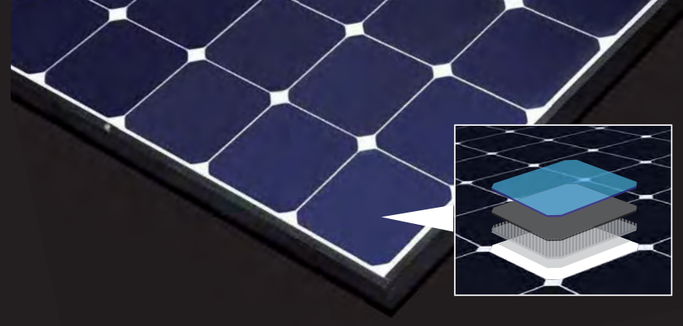
1985年設立、太陽光発電システムの世界的メーカー。2005年にはニューヨーク証券取引所に上場、また太陽光発電セルの変換効率で次々と世界記録を更新。2010年には日本の住宅向け市場において、東芝とパートナーシップを締結。

高い耐久性と高い保証体制で安心稼働

耐久性の高さもソーラーパネルには求められます。たとえ変換効率が高くても、頻繁に故障が起こり、変換効率が下がることがあれば利益のロスにつながります。「SunPower社製ソーラーパネル」は、劣化率がわずか0.25%と、高い耐久性を誇ります。バックコンタクト方式により電極をパネルの裏面に設置することで、劣化しやすいパネル表面の亀裂や腐食の影響を電極が受けにくい設計になっています。

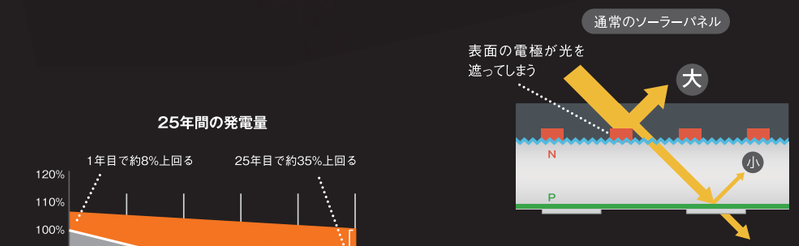
さらに安心して稼働をしていただくために、出力・製品の25年複合保証と高い保証体制も完備しています。運用開始から5年目までは95%の出力を保証。5年目から25年目までは、年0.4%以内の出力低下を保証します。

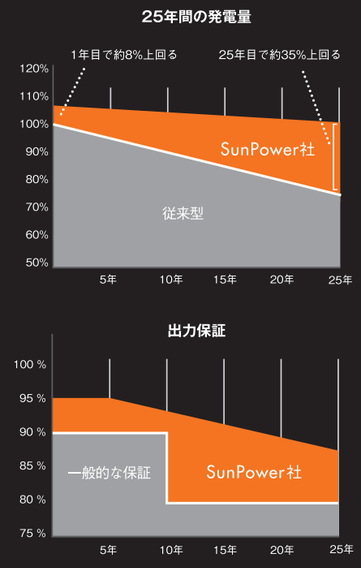
エクソルでは「SunPower社製ソーラーパネル」と相性が抜群のパワーコンディショナをご用意しています。また、ソーラーパネル、パワーコンディショナ、架台をセットにした50kW未満の太陽光システムパッケージ「XSOL50」なら、きっと満足いただけるものと確信しています。



SunPower社の特許技術「バックコンタクト方式」

通常パネルの表面にある電極をすべて裏面に設計する方式。太陽の光をさえぎる障害を表面からなくすことで、受光部の面積を最大化しています。また出力低下の原因となるパネルの亀裂・腐食など物理的な損傷の影響を受けづらくなります。





PANEL

MAXEON SOLAR
BY SUNPOWER CORPORATION

E20 SERIES

パネル変換効率 業界最高レベル
20.1%

SPR-E20-327-COMPANELS

POWER CONDITIONER

エクソルの高効率パワコンは防水性に優れた屋内外対応

「エクソルパワーコンディショナXL-PS40J」はコンパクト設計で、30bBの低騒音運転※1に加え、高い防水・防塵性能を誇るため、屋内外の狭い場所にも設置が可能です。電力変換効率は95.5%※2と極めて高く、変換効率が業界最高レベルの「SunPower社製ソーラーパネル」との相性も抜群で、高い事業採算性を実現します。単相・3回路パワコンのため、産業用システムとして複数台で使用することもできるので、故障時のリスク低減に繋がります。

※1 … 運転音は反響の少ない無響室で測定した数値です。実際に取り付けた状態で測定をすると、周囲の音や反響を受け、表示の数値より大きくなることがあります。

※2 … JIS C8961「太陽光発電用パワーコンディショナ効率測定法」による定格負荷効率。

PV SYSTEM

アンダー50kWソーラーで最良の太陽光発電システムパッケージ

太陽光発電システム(ソーラーパネル、パワーコンディショナ、架台ほか)の組み合わせパターンは無限にありますが、その土地や環境に合った最良の形は一つです。「XSOL50」は、いくつかの組み合わせパターンをエクソルが用意し、お客様の設置環境に合わせて最良の選択をしていただくためのソリューションです。継続的な運用・管理のリスクを最小限に抑えるため、10年間の機器保証と災害補償を標準で付帯しており、安心して発電事業に参入していただけます。

SunPower社製パネルと他社製標準効率パネル※1との売電額を比較

SunPower社製パネルと他社製標準効率パネルで、同じ規模の太陽光発電システムを組んで発電量を比較した場合、SunPower社製パネルの方が変換効率が高い分、総発電量と総売電額が高くなります。

右の表は50kWの太陽光発電システムをSunPower社製パネルと他社製標準効率パネルで構成した場合の比較です。20年間の総発電量を見ると、SunPower社製パネルの方が176,002kWhも多くなり、FIT対象期間の20年間を36円/kWh(税抜)で売電すると、約633万円も高く売電できることになります。また25年間になると241,922kWhとさらに差が広がります。

	SunPower社製パネル(327W)	他社製標準効率パネル(240W)	差額
パネル出力	50kW	50kW	−
年間発電量※2	62,850kWh	57,750kWh	**5,100kWh**
推定総発電量(20年間)	1,227,589kWh	1,051,587kWh	**176,002kWh**
推定総売電額(20年間)	約4,419万円	約3,785万円	**約633万円**
(参考) 推定総発電量(25年間)	1,525,004kWh	1,283,082kWh	**241,922kWh**

※1 他社製標準効率パネルは変換効率15%です。

※2 年間発電量は、山梨県におけるシミュレーション結果であり、天候などの条件により出力値を保証するものではありません。

当ページは、
シンクタンクからの出典データ、
および引用を含んでいるため、
ダウンロード版の掲載を控えております。
ご了承ください。

今号の気になる PV ワード vol.2

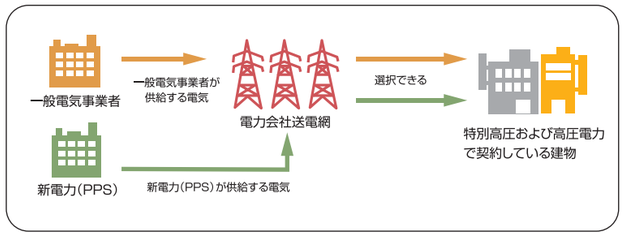
「新電力(PPS)」

新電力(PPS)
PPSはPower Producer and Supplierの略。

新しい形の電力供給方法

一般電気事業者の代わりに電力を売買する新電力

新電力とは、特定規模電気事業者のことで、契約電力が50kW以上の需要家に対して、東京電力や関西電力などの一般電気事業者が有する電線路を通じて電力供給を行う事業者です。契約電力が50kW以上ならば自由に電力を売買することができます。



増加する新電力への切替え

東日本大震災以降、電力が不足し、この新電力がクローズアップされました。一般電気事業者が電力料金の値上げをした結果、新電力との契約に踏み切るケースが増加しています。

現在も新電力の数は急増しており、競争が激化しています。2013年10月15日時点で政府に届け出た事業者数は124社を突破、実際に発電をしている新電力は39社にのぼります。

では新電力に契約を切替えるにはどうしたらいいのでしょうか。現在は電力会社との契約が特別高圧または高圧となっていれば、一般電気事業者から新電力に契約の切替えができるようになっています（下記「現在新電力に切替えできる契約の例」参照）。

次にどこの新電力と契約するかを決めます。会社によって供給できる地域とできない地域があるため、自分の地域で供給可能かどうかを調べる必要があります。また、電力料金を下げる為だけでなく、例えば自然エネルギーだけを扱う新電力と契約して「生（なま）グリーン電力」だけで電気をまかなうケースも増えています。

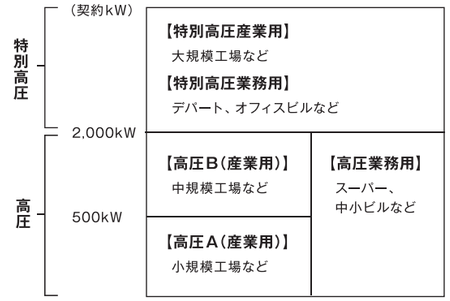
新電力に切り替える目的を明確にすることにより、契約する会社の絞込みに役立つでしょう。

契約する会社が決まった後は見積りを依頼し、内容を検討した後に契約、受電開始という流れが一般的です。

今後は一般家庭でも電力自由化の恩恵が受けられるように

現在は高圧以上の契約でないと新電力へは切替えられないため、自由化の恩恵を受けられる方は限られています。しかし、2013年4月に政府が発表した「電力システムに関する改革方針」では、2016年を目途に低圧分野を含めて電力小売市場を全面自由化することが明記されています。全面自由化が実施された場合、家庭でも電力会社や料金メニューを自由に選べるようになり、今以上に新電力への切替えが拡大すると考えられます。

■現在新電力に切替えできる契約の例



上記は新電力(PPS)に切替えが出来る契約の一例です。電力会社により名称等が違う場合やこれ以外の契約がある場合がありますので、詳細は各電力会社にご確認ください。

Q 新電力の電気はなぜ安い？

電力会社の電気料金は、電気事業法に基づき「総括原価方式」により計算されます（発送電、電力販売等の総費用の上に一定の報酬率を上乗せした金額を販売価格とする方法）。これに対して、新電力は電力会社に比べ自社で抱える設備や人員ははるかに少なく、また送電インフラも電力会社に借りて託送料を払うのみであるため、電力会社より安く供給できる場合があるのです。

Q 新電力会社から電気を購入する場合、現在の「設備の変更」は必要？

現在、設置されている電力会社の計量器などは、通常は設置をそのまま継続することになります。この場合、資産区分や維持管理責任は電力会社となりますが、電力使用量を把握するために新電力の端末装置を設置する場合があります。

CASE INTRODUCTION
導入事例

POWER PLANT DATA
発電所情報

設置場所:千葉県富里市
面積:6,655坪(約22,000m²)
太陽電池容量:1.6MW
施主:有限会社ミツハシ・プランニング
運用開始:2013年9月6日
モジュール:カナディアン・ソーラー
パワコン:日新電機

INTERVIEW

導入を決められた経緯を教えてください。
昨年度からスタートした固定価格買取制度のことを知ったのがきっかけです。昨年まで農業を営んでおり、比較的大きな農地を所有していましたが、太陽光発電について調べたところ、太陽光ビジネスの方が安定した収益を上げられると思い導入しました。まだ原発問題が解決していないこの時世で、太陽光発電所を持つことは少なからず環境や社会貢献ができているのではないかとも感じています。

これから20年間売電するに当たっての不安や期待されることはありますか?
長い期間を運用することになるので設備の故障が不安です。また、ここ最近は台風など自然災害も多いので被害に遭わないことを願っています。
逆に期待することは、導入前にシミュレーションで予想収益を出していただきましたが、実際はシミュレーションの数字よりも良い結果が出ることが多いと聞くので、収益面には期待しています。

周りからの反応はいかがですか?
建設前に地域住民の方にご説明をさせていただきました際に、一部懸念する意見もありましたが、環境貢献をしているからでしょうか、特に反対もなく皆様にご承諾いただけました。お取引先様を含め、あまり周りには太陽光発電のことを伝えてはいませんが、太陽光ビジネスを知っている知人からは「儲かっていいな」と言われます(笑)。

実際に設置された太陽光発電所を見られての感想を教えてください。
少し離れた小高くなっているところから見ると思ったより大きくは感じませんが、実際に近くで見るとすごく壮観な感じがします。改めて導入して良かったなと思います。

有限会社ミツハシ・プランニング
常務取締役
三橋 真一様

XSOL
INFORMATION

NEWS

YCAM 10周年記念イベント「LIFE-WELL」へ機材協力

YCAM(山口情報芸術センター)10周年記念イベント、「LIFE-WELL」の電力を太陽光発電でまかなうため、機材協力を行った。

http://10th.ycam.jp/term2/525/

参考作品「LIFE-fluid,invisible,inaudible…」(2007年／YCAM委嘱作品)
会場の中空には、内部を人工の霧で満たされた9つの水槽が宙吊りにされており、霧にスクリーンオペラで使用された映像が次々と投影されている状態。

EVENT

Solar Power International 2013に出展

10月22日~24日にアメリカ イリノイ州シカゴのマコーミックプレイスで開催されたアメリカ最大の太陽電池展「Solar Power International 2013」に出展。当社が取り扱うオリジナル製品を展示し、多くの来場者を集めブースは大盛況となった。

NEWS

沖縄出張所開設

沖縄エリアの太陽光発電事業拡大に伴い、営業力強化と機動力向上のため、沖縄県全域の拠点となる沖縄出張所を2013年9月25日に開設。沖縄エリアのシェア拡大を目指す。

NEWS

福岡営業所移転

九州エリアの太陽光発電事業拡大に伴い、営業力強化と機動力向上のため、九州全域の拠点となる福岡営業所を2013年11月11日に移転。九州エリアの更なるシェア拡大を目指す。

《太陽光発電所 事業用地募集のお知らせ》

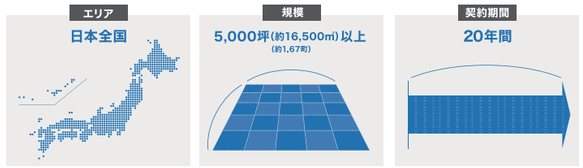
現在当社では、自然エネルギーの更なる普及による二酸化炭素の排出量削減を目指し、太陽光発電所の建設を進めており、そのための事業用地を募集しています。法人様・個人様を問わず、ご興味のある方は、是非お問い合わせください。

http://www.xsol.co.jp/siteoffer/

【お問い合わせ先】
TEL：03-5425-2828　営業時間 9：00 ～ 18：00(土日祝休み)
FAX：03-5425-1259
メールアドレス：keiki-ipp@xsol.jp
資料送付先住所：〒105-0012 東京都港区芝大門2-4-8JDBビル
(株) エクソル　用地募集担当者宛

FAX、メール、郵送にてお問い合わせいただく場合は、「土地の住所」、「面積」、「ご連絡先」を記入の上、「用地募集担当者」宛にお送りください。

募集条件



ご契約までの流れ